

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200149		
法人名	有限会社おおぎもと		
事業所名	グループホームJO・さざんか		
所在地	豊田市大蔵町大木本16番地1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和5年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2376200149-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、県道沿いにあり、山と田んぼに囲まれた自然豊かな環境下にあります。利用者様の個々に合わせて、できる事を見つけ、洗濯物を干したり畳んだり、紙ちぎりや裁縫など無理なく作業をして頂いています。リハビリにもつながっており、身体機能の維持や役割があるという思いが、認知機能の悪化予防につながっています。また、こども園や小学校、老人クラブの来訪があり、地域のつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は勿論、管理者や職員も地元出身者が多く、地域との繋がりは強い。地域の社会資源である学校や老人クラブとの交流は以前より図られ、コロナ禍の現在でも感染防止のため様々な制約がある中、日々の散歩での挨拶や作品の交換などで継続されている。
 管理者と職員、職員同士、職員と利用者、それぞれで良好なコミュニケーションがとられており、理念や方針に掲げられた通り、アットホームで利用者が穏やかに過ごしていけるホームとなっている。このことは、利用者家族から寄せられたアンケートから容易に推察でき、ホームとしての取り組みの成果となっている。
 災害対策にも前向きに取り組んでおり、具体的な想定による検討がなされ、停電時の対応として非常用電源を設置し災害に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[恕]の精神を基本とし、毎朝業務前に管理者と職員は、基本理念を唱和、共有し、業務に入っている。	基本理念や方針は明文化されており、職員はいつでも確認できる。職員は理念や方針を唱和して業務に当たり、日常の支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主は、地域の一員として当地域に長く暮らしている。また、従業員も利用者も地域の者が大部分な事から、地域に浮いてしまふ事なく、溶け込んで暮らしている。	近隣の住民から、日常的に野菜や日用品の差し入れがあり、ホームは地域から認知されている。地域行事が中止されている現在は交流に制約があるが、地域との交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や当地域の催しなどの出席の機会などから地域の方に溶け込むように働きかけ、理解して頂けるように、支援させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの助言や意見を頂き、それらを業務に生かせるように努めている。会議内で、活性化の為、認知症やグループホームについての豆知識等研修内容を盛り込んでいる。	運営推進会議は書面開催として行われている。隣接する同法人のホーム(JO・さざんか第2)との合同開催の形で行い、行政や家族・地域に対して、ホームの状況や利用者の様子が報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から市との必要以外のやり取りはないが、介護相談員の受け入れを通して連携を行っている。	行政とは、電話やFAXを利用して情報交換や相談を行っている。必要に応じて訪問し、担当の職員と話し合うこともある。現在、介護相談員の訪問は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方の了承を得ながら、安全上やむを得ず身体拘束をさせて頂くこともあるが、見守りを基本とし、極力拘束をしない介護を心掛けている。	身体拘束は行わないことを基本として支援している。やむを得ず拘束を行う場合は手順に従い、方法や期間を定め、家族等の了承を得た上で実施している。職員の拘束に関しての理解を深めるため、毎月のミーティングの中で研修や勉強会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時、「ストップ・ザ・虐待」の研修を入れ、認識を高めている。虐待に至るスタッフのストレスや疲労、日常の心身の状態にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族と話し合い、成年後見制度を利用することもある。社会資源を十分に利用者様に生かすことが出来る様に、常に学ぶように心かけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項等、説明し、利用者様やご家族様の不安や疑問をお聞きし、理解や納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の出席や普及の来訪の折、日常においても意見を頂くことが出来る様に門戸を開いておくという努力をしている。	家族等には面会時や電話で話す機会に、意見や要望を聞いている。利用者の日常を、請求書を送付する際に伝えるようにし、出来るだけ情報を提供して意見をもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常時常勤している。気安さを以て何でも話せる雰囲気を出し、意見や提案を聞く努力を反映させて、出来ることのできる様にしている。	管理者は日常的にホームにおり、職員とはいつでも話が出来る。話しやすい雰囲気づくりに努め、意見や提案を聞くようにしている。職員からも、「話しやすい環境である」との言葉がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時常勤していることから、スタッフ一人ひとりの介護の実際や力量を把握し、熟知し、スタッフへの指導に当たっている。介護業務を通し学ぶ機会と据え、やりがいや向上につなげられるように指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、常時常勤していることから、スタッフ一人ひとりの実際や力量を把握している。法人研修は、会場が遠方にて参加は、少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少なく、切磋琢磨の機会を多くしたいと思っている。市内など近距離での交流、研修が好ましい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者は常時常勤していること、またスタッフからの気づきや報告などから、スタッフと相談しながら、本人の安心や安定の気持ち作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪の折など、ご自宅での様子をさりげなく会話の中から把握するよう努めている。また代表者の知り得ているノウハウを出来る限り話すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は、介護保険上無理と据えられているが、どのように暮らしていきたいかを完治する努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年単位のお付き合いであり、名前でも言い合えるフレンドリーな関係であると思っている。「親しき中にも礼儀あり」の諺を守り、礼節は大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話にて、ご家族と連絡を取りながら、利用者様が安心して暮らして頂ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出の際、実家に寄ってみたり、隣近所の方を見て話をするなど、お互いに共通の話題が持て、話ができるように関係作りをしている。	コロナ禍ではあるが、感染対策を施した上でドライブや外出・散歩など、戸外へ出るよう支援している。ホーム内では、利用者の習慣や趣味が継続出来るよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立してしまわない様に、寂しくない様に、利用者様同士会話が出来る関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され家庭に帰られた方も関心を持ち、近所の方に様子をお聞きしたり、本人に会い、元気を喜び合ったりして、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室は、利用者様の暮らしやすいように使用している。本人の希望に出来るだけ沿うようにしている。	職員は利用者との日常的な会話や仕草などをよく観察し、思いや意向を把握するよう努めている。会話や行動を記録に残して共有・検討した上で、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様は、この辺りの方が多く、方言が飛び交い、安心の間柄である。生活歴はスタッフと大差ないので、生活歴も共感できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由に過ごして頂く様にしている。毎日バイタルサインのチェックを行っている。その方のADLに合った生活が送れるようにと、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング時、細かいケアプランを共有し、意見を出し合い、その方が元気に安心して頂くように、努めている。	日々観察した利用者の様子を基に、職員間で共有して検討し、介護計画が作成されている。モニタリングも毎月行っており、利用者の状態に合った計画になるよう随時見直している。	介護計画の内容に関し、具体性に欠ける部分がみられる。利用者の課題、提供するサービス内容を、より具体的なものにする必要であろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録様式に沿って記録している。勤務者は記録を読み、状態の把握に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の認知症の行動障害に合うように工夫し、グッズを作成し、スタッフ側の勉強にもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様、カラオケ、踊り、学校、保育園など、多くの方の協力で毎日変化があり、豊かな暮らしとなっているのではないかと考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院、開業医など、その方のかかりつけ医へ希望通り受診のお手伝いを行っている。	協力医が月1回訪問しており、利用者のかかりつけ医の訪問もある。通院にもホームが対応し、利用者の状態に応じた適切な医療を受けることが出来る体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐や准看護師のスタッフもあり、健康状態を常に把握し、見極め、早めの受診、看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と相談しながら、その方やご家族が大きく不安にならない様に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と十分に話し合いを行い、事業所内で出来ることは、これ以上ないかと模索しながら、その方が安全、安心して暮らして頂ける様に関わっている。	ホームでは、重度化や終末期の対応にあたっては、医師や家族等と密な連携をとって対応している。利用者や家族等の思いを尊重し、ホームとして出来る限りの支援を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	労働時間の関係上、また非常勤者で勤務することが多いので、中々スキルアップや周知は難しい。代表者、管理者の常駐から、その判断をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練において避難訓練を行っている。	ホームでは毎月防災訓練が行われている。土砂災害のリスクがあり、災害発生時の対応の確認が出来ている。非常用電源や飲料水などの備蓄も完備している。	災害発生時には地域との連携が必要であり、協力体制の構築・維持への取り組みが必須となる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字かお名前をお呼びすること、「ちゃん」呼びはしない等、その方の尊厳や人格は、重視している。	職員の利用者への対応は穏やかであり、人権や尊厳・プライバシーについて配慮がある。ミーティングの中で研修や勉強会が行われ、職員は権利擁護の重要性を理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の承諾を得る、納得して頂く、ご自分で決めて頂く様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の規則正しい生活に沿いながら、希望される場合は、その方のペースに合わせていく。その方が元気に安心して暮らして頂くことを基本に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の希望に沿い、散髪を行っている。受診時や外出時は、身だしなみに気を付けている。高齢者になっても、お洒落心は大切と考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の個性を尊重して食事を提供している。出来るだけ準備や片付けを一緒にして頂く。	3食ホームで調理しており、利用者の嚥下機能に合わせた形態で提供している。季節のイベントに因んだメニューの提供もある。利用者の出来ることは職員と一緒にいき、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食の方、お粥など、その方に応じて食事の形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方、歯磨きの方など、その方に合った方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じた方法で、排泄ケアを行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者の状態に合わせた個別の支援を行っている。介助時はドアを閉めるなど、プライバシーや羞恥心に配慮した支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの食材、特に野菜を多く提供している。排泄記録をつけ、排泄状況を管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務の都合上、個人の希望を叶えることは、難しい。安全上の問題から夜間帯の入浴は行っていない。	週に2回から3回の入浴を支援している。利用者の状態に合わせた入浴方法を選択し、入浴剤を使用するなど、寛げる時間となるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツや枕カバーの洗濯を定期的に行い、気持ちよく睡眠出来る様に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、確実に服用できるように、分包、分配し管理している。また薬の効能書は、ファイリングし、いつでも見られるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	娯楽、散歩、ドライブ等行いながら、生活に変化を持たせるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に出来る限り沿うよう関わっている。	コロナ禍ではあるが、ドライブでの車中からの花見やホーム周辺の散歩など、戸外へ出るよう支援している。ホーム内で出来ることに注力し、利用者が気分転換出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は管理していただく。管理できない方は、ご家族に管理して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に合わせ、その方に合った方法で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整然とされ、障害物がないように気を配っている。清潔には特に気を配り、清掃、アルコール消毒、空気清浄機の設置をしている。	共有空間には、利用者が移動するときに障害物となるようなものを置かないようにし、安全な動線が確保できるようにしている。清潔保持にも努めており、清掃・消毒を行い、安心して過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子を見ながら、楽しく毎日を過ごして頂く様に、ご本人の納得を得て、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からご本人が使用していたものを持ち込み、使用して頂く。ベットや家具の配置など、その方が暮らしやすい空間を提供している。	居室は、利用者が落ち着いて過ごせるように、使い慣れた調度品や趣味のものを置いている。ベットや調度品は、利用者の安全を確保できるように配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできる事はして頂き、御礼を言って頂く喜び、張り合いなど、生きているという喜びを思ってもらえるように関わっている。		